

ほかほかタイムズ

今年度最後の「ほかほかタイム」は、日光市役所総務課防災対策室の西村守様をお招きして、お話を伺いました。



私は、皆さんが安心して日光市で生活できるように、日光市の防災に取り組む仕事をしています。防災とは、「人を不幸にするような出来事が、起きないようにすること」です。災害には、「自然が起こすもの」と「人が起こすもの」ありますが、今日は「自然が起こすもの」についてお話しします。自然が起こす災害には、数多くの種類があります。まず一つ目は、雨です。台風や梅雨の時など雨がたくさん降ると、川の水があふれ、周りが水浸しになったり、山から岩や土が流れてきて、家が壊れたりするなどの災害が起こります。二つ目は、地震です。大きな地震が起きると、物が落ちてきて怪我をしたり、家が壊れたり、火事が起きたりもします。山が崩れたり、海では津波が起きたりもします。栃木県には海がないので、災害が一つ少ない県になります。ただし、海に遊びに行っているときに地震が起きたら、津波が起きるかもしれませんので十分注意しましょう。三つ目は、雪です。皆さんは、雪が降るのを楽しみにしているかもしれませんが、雪もいっぱい降ると、転んで怪我をしたり、車がスリップして事故が起きたり、山では雪崩が起きたりします。四つ目は、風です。強い風が吹くと、物が飛んできて怪我をしたり、家の屋根が壊れたりします。風が強いときに火事が起きると、大火事になることもあります。ほかに、雷による災害や、火山の噴火による災害、また雨が降らない日が続くと、米などの作物が育たず、飲み水が不足するなど、干ばつという災害が起きます。

では、この今市地域では、今までにどのような災害が起きたのでしょうか。今から67年前に起きた今市地震では、亡くなった人と行方不明の人が10人、怪我をした人が163人、大きく壊れた家が約3000軒、6年前の東日本大震災では、亡くなった人が1人、怪我をした人が4人、大きく壊れた家が7軒、2年前の関東・東北豪雨では、亡くなった人が1人、怪我をした人が4人、大きく壊れた家が119軒という大きな被害がそれぞれありました。皆さんの中でも、2年前のことを覚えている人は多いと思いますが、6年前の東日本大震災を覚えている人はどのくらいいますか？「雨が何時までも強く降り続いて怖かった。」「地面が長い間揺れて、とても怖かった。」と覚えている人は、それを忘れず、知らない人に、「私はこんなに怖い思いをした。災害は、とても怖いものだ。」ということを伝えてもらいたいのです。皆さんのおじいちゃんおばあちゃんの中で、今市地震を知っている人がいたら、どれだけ怖い思いをしたか聞いてみてください。

次に、災害が起きたらどうするか、考えましょう。家の人や先生などといるときに災害が起きたら、大人の言うことを守って行動しましょう。自分勝手な行動はいけません。もし大人がいなかったら、自分の命を守るための行動をとります。一番大切なものは、自分の命です。自分の命を守ったら、周りを見て、助けを求めている人がいたら、自分の安全を確保し、自分のできる範囲で、みんなで協力し合って助けましょう。災害が起きたとき、「自分の命を守る」「他の人を助ける」ことが一番の防災です。川の水があふれないように堤防を作ったり、家が壊れないように丈夫にしたりすることも防災ですが、どんなに立派な物を作っても、考えてもいないような大きな災害が起きたら、壊れてしまうかもしれません。大切な物が壊れてしまうのは悲しいことですが、新しく作ったり買ったりできます。でも、皆さんの命や家族・友達の命は、また新しく買ったり作ったりするわけにはいきません。今日は、このことだけでも、覚えてもらいたいと思います。

西村様は、スライドを使い、簡単な言葉でお話くださったので、子どもたちは防災について、しっかり理解することができました。子どもたちの感想は、裏面に載せてありますので、御覧ください。

-----キ リ ト リ-----
保護者の皆様から、御意見・御感想がありましたら、お寄せください。

担当：大森

氏名（ ） 児童名（ 年 組 ）